

コウノトリを荒川へあら ～こうのす鴻巣市のまちづくりのシンボル～

コウノトリ等を指標としたエコロジカル・ネットワークの形成を目指します。



こうのす
JR鴻巣駅東口にあるコウノトリのモニュメント



コウノトリのデザインタイル



「こうのとりの通り」の看板

コウノトリのとくちょう特徴

コウノトリは、コウノトリ目コウノトリ科の鳥で、体長は約110～115cm、体重は約4～5kgで、りょうよく両翼を広げると200cmにもなる大型の鳥です。食性は完全な肉食で、魚やカエル、こんちゅう昆虫などを食べ、水田や河川、しつち湿地といった水辺生態系ピラミッドの頂点に立つ高次消費者に位置づけられます。

本来は渡り鳥で、はんしよく繁殖地である極東地域（アムール川中流域）から越冬地の中国東部（揚子江中流域）や韓国、台湾などの間を渡っていましたが、日本に渡ってきたコウノトリは、国内に留まり繁殖する個体も多く、古くから日本各地に生息していたと考えられています。

江戸時代には、関東はもとより東北地方から九州地方まで広く分布していたことが各地の産物帳の記録や当時の様子を伝える屏風絵などから伺えます。



コウノトリ

▶ 荒川における取組み

水田とともに、コウノトリにとって重要な採餌環境となる河川の護岸や浅瀬、湿地のほか、営巣・ねぐら・休息の場となる河畔林をはじめとした樹林地について、鴻巣市では元荒川の河川管理者などとの連携を進めることにより、その保全・育成を図っています。さらに、水辺と樹林とのつながり(連続性)に配慮して、それらの自然を一体的に保全・再生するとともに、生きものが互いに繋がりをもちながら生息している空間であるビオトープの保全や整備を促進することにより、市域全体の生物多様性を高めるエコロジカル・ネットワークの形成を進めます。



コウノトリの採餌に適した自然環境（元荒川）

▶ 鴻巣市コウノトリの里づくり基本計画

鴻巣市は埼玉県ほぼ中央に位置し、市内には秩父山地を源流とする荒川や元荒川、見沼代用水が流れるなど水利に恵まれており、おおむね平坦な地形を活かした豊かな田園地帯が広がっています。また、大宮台地の一部をなす鴻巣市の南部には、武蔵野の面影を伝える雑木林が残っています。

このような水と緑に恵まれた豊かな自然環境は、貴重な財産であり、これらを未来に引き継いでいくことは、現代を生きる私たちの責務です。

本計画は、鴻巣市名の由来の一つともいわれ、市民にとってなじみの深い「コウノトリ」を自然と共存する持続可能なまちづくりのシンボルとして掲げ、本市の大きな特長である首都圏有数の豊かな自然環境の保全・再生やこの特長を活かした地域振興について、市民や事業者、学校などと連携した施策展開を図り、コウノトリとの共生による、人にも生きものにもやさしい「コウノトリの里」の実現を目指すものです。

コラム 鴻巣の地名の由来と鴻神社

「こうのす」という地名は、古代に武蔵国造（おさしのくにのみやつこ）である笠原直使主（かさはらのあたのおみ）が現在の鴻巣市笠原のあたりに居住したとされ、また、一時この近辺に武蔵の国の統治を行う機関（国府）があったのではないかと推測されることから、「国府の洲（中心）こくふのす」が「こうのす」となり、後に「こうのとりの」の伝説から「こうのす」の字をあてるようになったと思われます。

国府のことを「こう」と呼ぶのは、他の地名（国府台[こうのだい]、国府津[こうづ]など）からも類推され、国府のお宮を国府宮（こうのみや）と呼ぶのは、愛知県稲沢市にある尾張大国霊神社、別名国府宮（こうのみや）など、全国でも例があります。

アクセス

鴻神社

交通：JR高崎線「鴻巣駅」下車、徒歩約8分

住所：埼玉県鴻巣市本宮町1-9



鴻神社